

第1回 獣医学生 アイデアコンテスト

名前/チーム名： 荒川笑美

学校名： 鳥取大学 1年

タイトル： ALL FOR WAN! ～動物の苦痛のない獣医療を～

解決したい現状の課題とその理由： 動物のきもちを翻訳する翻訳機を利用し、伴侶動物自身にも問診することでより動物の視点に立った診断や治療ができるようにし、人間の都合に依存しない獣医療の確立を目指します。

【アイデアの詳細】

現在、小動物臨床に関わらず多くの獣医療現場で人間の都合を優先した診療が行われています。小動物臨床では主に飼い主の費用や思想が、産業動物臨床では農家さんのコストや利益が優先されています。動物倫理をどの範囲でどの程度適用するかという問題は簡単には解決ありません。しかし、人間の都合も重要ではありますが、そこに少しでも動物自身の意志が介入できれば人間有意である現状が改良されていくのではないかと思います、また、動物凛凛の問題に新たな視点と議論を投げかけられるのではないかと思います、このアイデアが思いつきました。

翻訳機を用いた伴侶動物自身への問診システム
～動物の苦痛のない獣医療を～

ALL FOR WAN!

鳥取大学 荒川笑美

A:画像作成: CANVA 利用

<p style="text-align: center;">●課題●</p> <p>○現在の診療は、真に動物目線であるとは言えない…</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p>ヒトの都合に合わせた診療方針になっている</p> <p style="font-size: x-small;">動物の痛み、費用による制限etc...</p>	<p style="text-align: center;">●解決方法●</p> <p>診療の際に伴侶動物に翻訳機を取り付け、動物自身に問診し、飼い主と相談したうえで治療方針を立てていく</p>	<p style="text-align: center;">●デメリット●</p> <p>○翻訳機開発の経費、時間 ○翻訳機設置の費用 ○丁寧な問診による回転効率の低下</p>
--	---	--

翻訳機の想定

☆脳波などを測定し、感情や主訴を数値化、言語化することによって判断しやすくする機械

☆「おなかが痛い」「足が変な感じ」「目に圧迫感がある」と症状が具体的にわかるようになると尚良い!

展望

☆人間の都合だけではなく、動物の状態をより考慮した判断や治療が行われるような未来に…

☆的確な診断で動物の苦痛が少ない未来に…

テクノロジーで伴侶動物と人の距離をもっと近く

